

凍結融解単一胚盤胞移植の有用性

おちウイメンズクリニック

○上畑 みな子 池上 美希 小野 雅子 越知 正憲

目的

多胎妊娠での在胎期間は単胎妊娠と比較して胎児数が増えるにつれ短くなり、双胎でも約50%が低出生体重児となるとの報告がある。妊娠中のトラブルは増加し、低体重児は出生後の予後も悪くなる。又、複数の胚盤胞移植での胎盤共有、キメラの問題も取り上げられている。

当クリニックでは、不妊治療での多胎妊娠率の低下を目的として単一胚盤胞移植を積極的に施行しその有用性を検討した。移植法として、子宮内膜との同調性を高めるため寺元のホルモン補充周期を併用した凍結融解胚盤胞移植を行った。

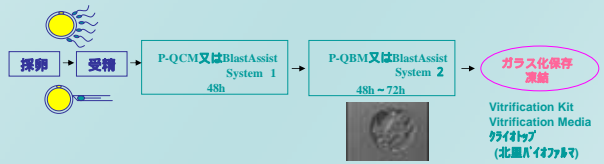
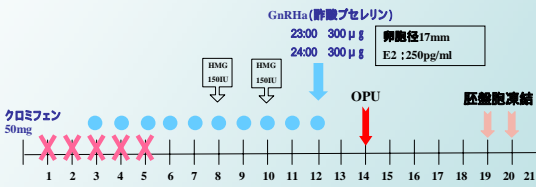
対象および方法

期間：2003年1月から2005年7月までにホルモン補充周期下に凍結融解胚盤胞移植を施行した症例

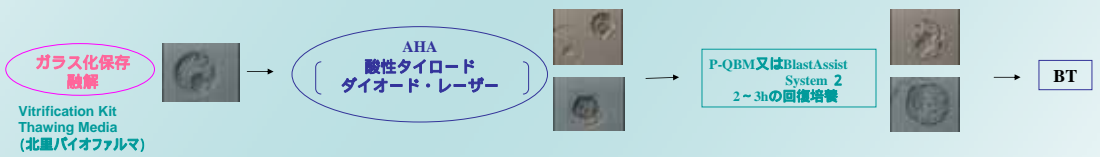
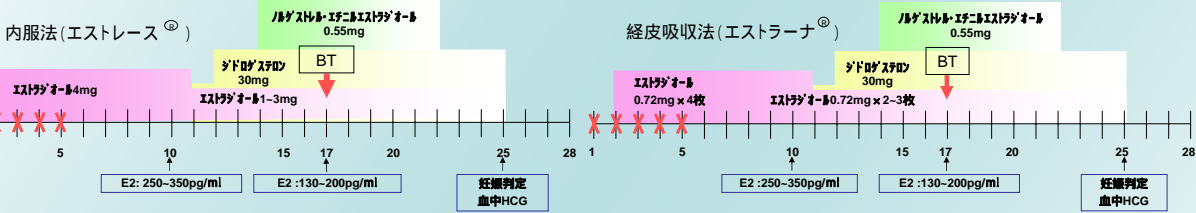
複数融解群：1回の採卵で発生した胚盤胞を凍結保存、1周期に2～3個融解2個胚移植
単一融解群：1回の採卵で発生した胚盤胞を個々に凍結保存、1周期に1個融解胚移植

	複数融解群	単一融解群
症例	38	125
周期	38	171
既往移植回数	3.2	2.7
平均年齢	35.6	35.9

クロミフェン-HMG-GnRHa周期採卵

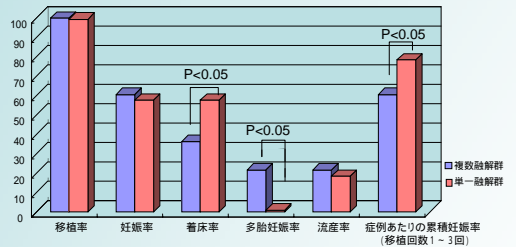


ホルモン補充周期下融解胚盤胞移植



成績

	複数融解群 (2個移植)	単一融解群 (1個移植)
症例	38	125
移植周期	38	171
移植率	100 (38/38)	99.4 (170/171)
妊娠率 (対移植)	60.5 (23/38)	57.6 (98/170)
妊娠率 (対症例)	60.5 (23/38)	78.4 (98/125)
着床率	36.4 (28/77)	57.6 (98/170)
多胎妊娠率	21.7 (5/23)	1.0 (1/98)
流産率	21.7 (5/23)	18.4 (18/98)



結論

- 1) 1回の採卵で発生した胚盤胞を個々に凍結、融解する事により胚移植の機会が増え、高い症例あたりの妊娠率を得ることが出来た。
- 2) 多胎妊娠率は有意に低下し、妊娠率を下げることなく高度生殖医療における多胎妊娠を減少させる事が可能であった。

凍結融解単一胚盤胞移植は有用であると考えられた。